個に応じた自立活動の指導
～明確な評価方法の探究～

令和4年度　高等部のまとめ

高等部が選んだのは

TELER

テラー

「簡潔ではっきりと評価できるもの」

「自立活動の評価って何？」…もやもや4つ

①「評価」という言葉と「学習の様子」の違いが難しい。

②評価はどうしても主観的になる。「誰とでも」にするのが難しい。

③成績表（指導計画）には、「やったこと」と「そのときの様子」の記載になってしまう。 何をもって「評価」というのかわからない。

④「できた、できない」でよいのでは。 ただ自立活動は教科ではない。

「本当はこうしたい！」
自立活動の評価

- 目指すところは「いつでも、どこでも、誰とでも」である。
- 誰が見ても「そうだな」とわかるような評価がしたい。
- 「できた、できない」も大切であるが、どういうアプローチや支援をしたら「こうだった」という評価にしたい。

本校が統一して挑戦した学習評価は

ルーブリック

（評価基準を５段階にアレンジしたもの）

「ルーブリック」どうだった？

良かったところ

- 目標に対して5段階の基準を検討し、指導法や方向性、アプローチを意識できた。教員間で共有できた。

- 評価基準がマトリックス表でわかりやすかった。

- 生徒自身が目標を決め、意識の向上、解決方法を見出した。

「ルーブリック」どうだった？

困ったところ

- データーの量が多いと折れ線グラフにするのが難しい。

- 指導結果によって、設定した評価基準に当てはまらない。

- 評価者が複数の場合、すり合わせが困難になる。

「自立活動の評価って何？」

…もやもや4つは解消したの？

…もやもや1つめ

「評価」という言葉と「学習の様子」の違いが難しい。

評価とは、
今の状況、実態を把握するため、
手だて・課題点を見つけるため、次につなげるためにある。

⬇

そうなると…単純に段階評価できないこともある。
やっぱり学習の様子、どんなアプローチをしたらできたのか
評価に書きたい。

…もやもや2つめ

評価はどうしても主観的になる。

「誰とでも」にするのが難しい。

⬇

指導法、方向性、評価基準などを教員間で共有することで、「誰とでも」に近づけたのではないだろうか。

…もやもや3つめ

成績表（指導計画）には、やったこととそのときの様子の記載になってしまう。
何をもって「評価」というのかわからない。

↓

学習の様子を記載したいのに、ルーブリックは、どの教育課程の成績表にも使えるのか？
ルーブリックのどこを指導計画に反映できるのだろうか。

…もやもや4つめ

「できた、できない」でよいのでは。
ただ自立活動は教科ではない。

⬇

自立活動は、各教科を学習するための基盤をつくるためにある。
準ずる、下学年、知的代替では、「できた、できない」と5段階でおおむね評価できたと思われる。
自立主体の教育課程ではどうなのか。